

平成 29 年度南秋地域公共交通網形成計画(案)策定業務
住民・学生アンケート調査 調査結果

【概要版】

平成 29 年 11 月

株式会社 ケー・シー・エス 東北支社

住民・学生アンケート調査 調査結果

目次

1. 調査の概要	- 1 -
2. 調査結果概要（住民アンケート調査）	3
3. 調査結果概要（中学生アンケート調査）	6
4. 調査結果概要（高校アンケート調査）	8

1. 調査の概要

1-1 調査概要

本調査は、3町村の日常生活における行動特性や公共交通の利用実態、公共交通に対する意見・要望及び満足度評価・重要度を把握することを目的として実施した。

調査対象は五城目町・八郎潟町・大潟村の3町村とし実施した。なお、公共交通利用層である学生・高齢者等の「顕在需要層」と今後、公共交通利用が見込まれる免許返納検討層等といった「潜在需要層」を中心に行った。

本調査結果を踏まえ、顕在需要・潜在需要それぞれの行動特性・ニーズを的確に把握し、地域特性・実情を踏まえた計画策定を行う。

表 1-1 アンケート調査の概要

区分	住民（20歳以上）	中学生	高校生
目的	・住民の日常生活における移動実態や公共交通の利用実態、意見・意向等を把握する	・高校進学時の通学状況、支払い意志額など確認する ・保護者の送迎に対する意識、通学費用に対する考えなどを確認する	・高校への通学状況、支払い意志額など確認する ・保護者の送迎に対する意識、通学費用に対する考えなどを確認する
対象	・20歳以上の男女 ※但し100歳以上及び不詳は除く ・免許返納検討層（70～80代）をボリュームゾーンとして設定	・3町村、3中学校の3年生 128名程度（五城目第一中、八郎潟中、大潟中）	・秋田県立五城目高校の1年生 81名程度
方法	・郵送配布・郵送回収	・HR等で配布・回収	・HR等で配布・回収
実施時期	・発送： 9月8日（金） ・投函締切り： 9月25日（月）	・配布：9月中旬 ・回収：9月下旬	・配布：9月中旬 ・回収：9月下旬
回収結果	・回収 722票(回収率 42.4%)	・回収 126票	・回収 81票

1-2 調査結果まとめ

調査結果による総論は以下の通り。詳細は次ページより掲載する。

南秋地域 住民アンケート結果（3 町村合算 722 票）	
回答者属性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 65 歳以上の回答が約 6 割 ・ 上記回答割合より多く、「500m以上歩けない」と回答した住民が多い
公共交通の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運転免許返納時期は、75 歳以上になってからを希望している回答者が多い ・ 上記に伴い、10 年後には 100 人以上が免許返納予定 ・ 免許返納後に公共交通を利用する予定有り ・ 利用する予定ではあるが、現状は公共交通についてよく知らない状況 ・ 現在公共交通を利用している回答者は 100 人以上確認された ・ 利用者は「公共交通同士の乗り継ぎ」と「運行本数・間隔」に改善要望有り
希望する新規交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片道 300 円または 500 円での移動を希望 ・ 運行本数は朝・昼・夜の 3 往復を最低本数として希望 ・ 平日・休日ともに必要だが、休日は本数が少なくても可 ・ 公共交通は利用し、地域で維持していく意向有り ・ 南秋地域内の生活拠点を結ぶ交通を希望 (例：湖東厚生病院まで直行し、通院後、買い物拠点などを通過する等)

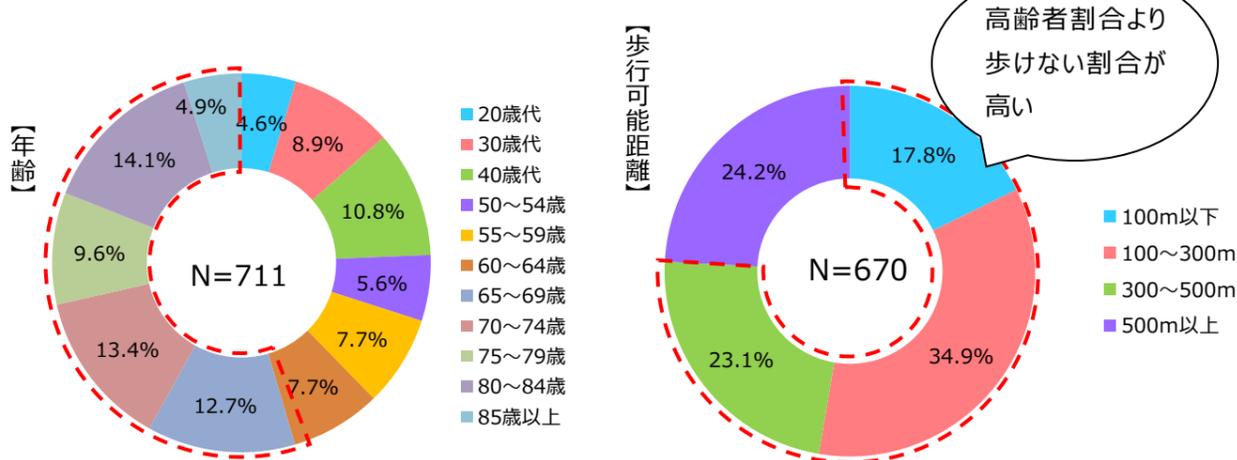
南秋地域 学生アンケート結果（中・高合算 207 票）	
回答者属性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学 3 年生の志望高校は 8 割が秋田市などの地域外 ・ 五城目高校 1 年生は地域外からの通学が 7 割
公共交通による通学状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五城目高校への登校は朝 7 時前後に自宅出発、下校は 17 時 30 分以降が多い ・ 公共交通で五城目高校へ通っている学生からは、「運行本数・間隔」と「運行状況などの情報発信」に改善要望有り
高校通学において希望する新規交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学時の交通費は、月 1 万円前後を上限として希望 ・ 「7 時前後に八郎潟駅で乗り継ぎ可能」で、「17 時以降八郎潟駅や五城目高校での乗り継ぎや発着がある」交通を希望 ・ 運行遅延や天候による運行状況がわかる交通サービスを希望 ・ 希望の新規交通が導入された場合、本調査においては地域内で最低でも約 150 人以上は利用する意向有り

2. 調査結果概要（住民アンケート調査） 722 票集計（以下無回答・白紙は外して集計）

□ 回答者の属性について

■ 回答者の年齢・職業・歩行可能距離

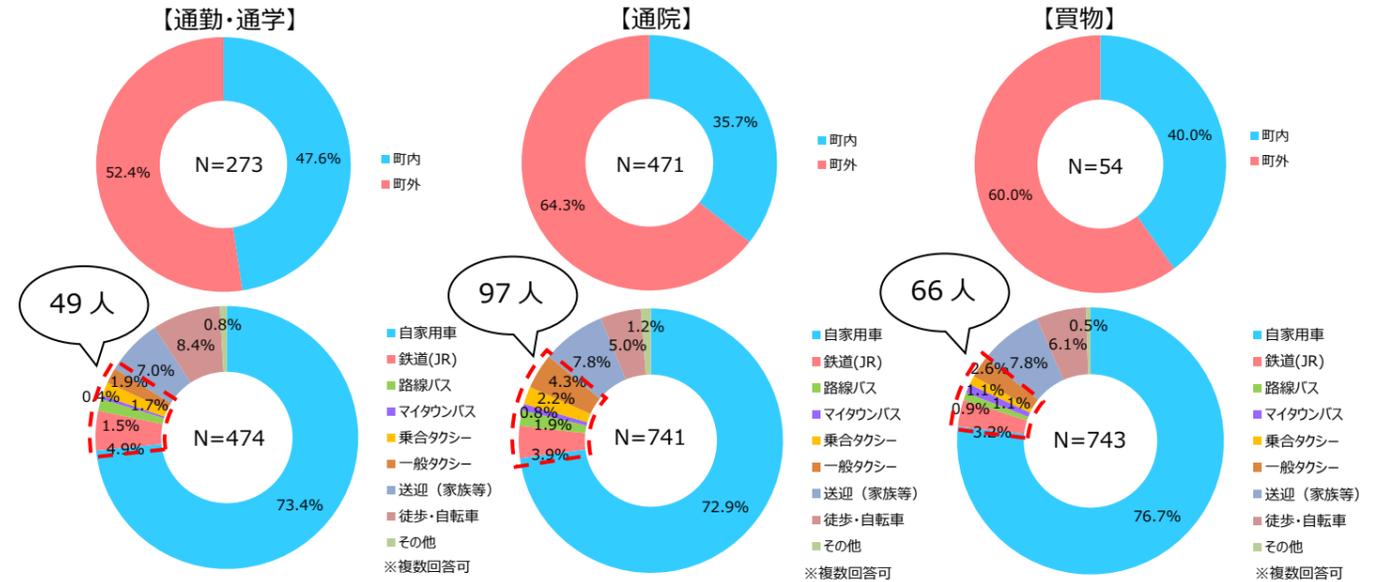
- ・65歳以上の高齢者からの回答が半数以上を占めている。
- ・歩ける距離が500m以下という回答が約7割以上を占めており、高齢者割合よりも高い。



□ 日常生活の移動について

■ 日常生活（通勤・通学、通院、買い物）における移動実態

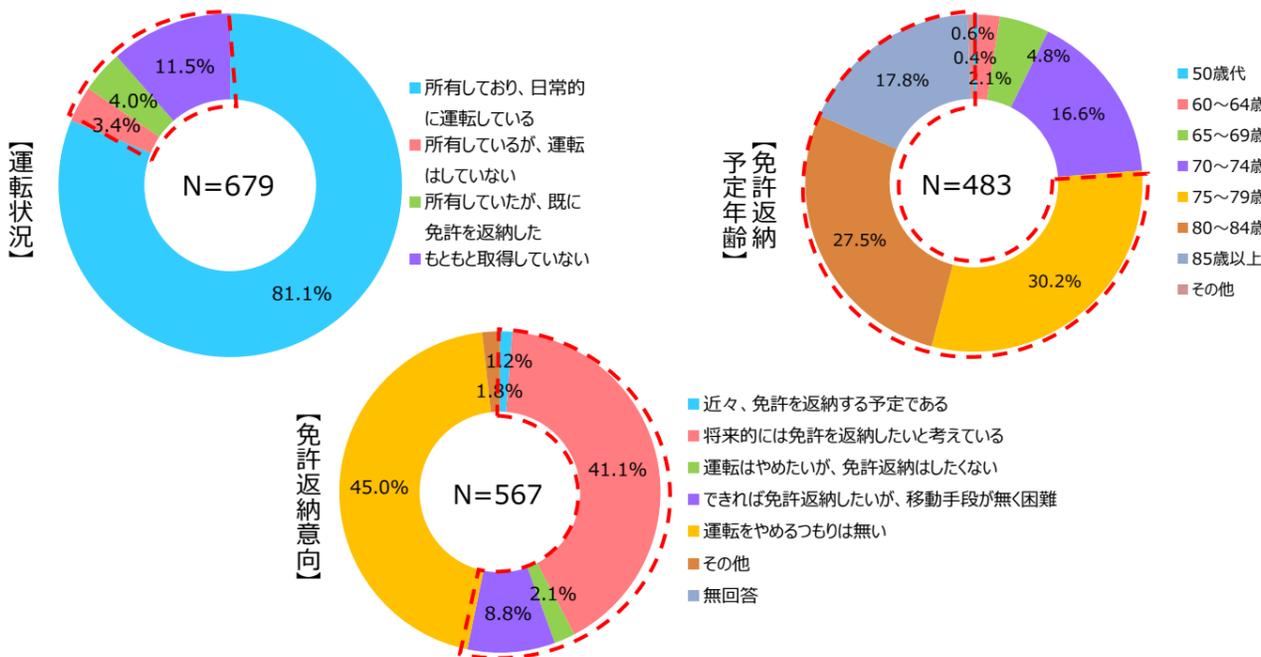
- ・どの目的においても町外への移動が5割以上である。
- ・自家用車での移動が約7割だが、どの目的においても公共交通利用者は約50人前後となっている。



□ 免許返納について

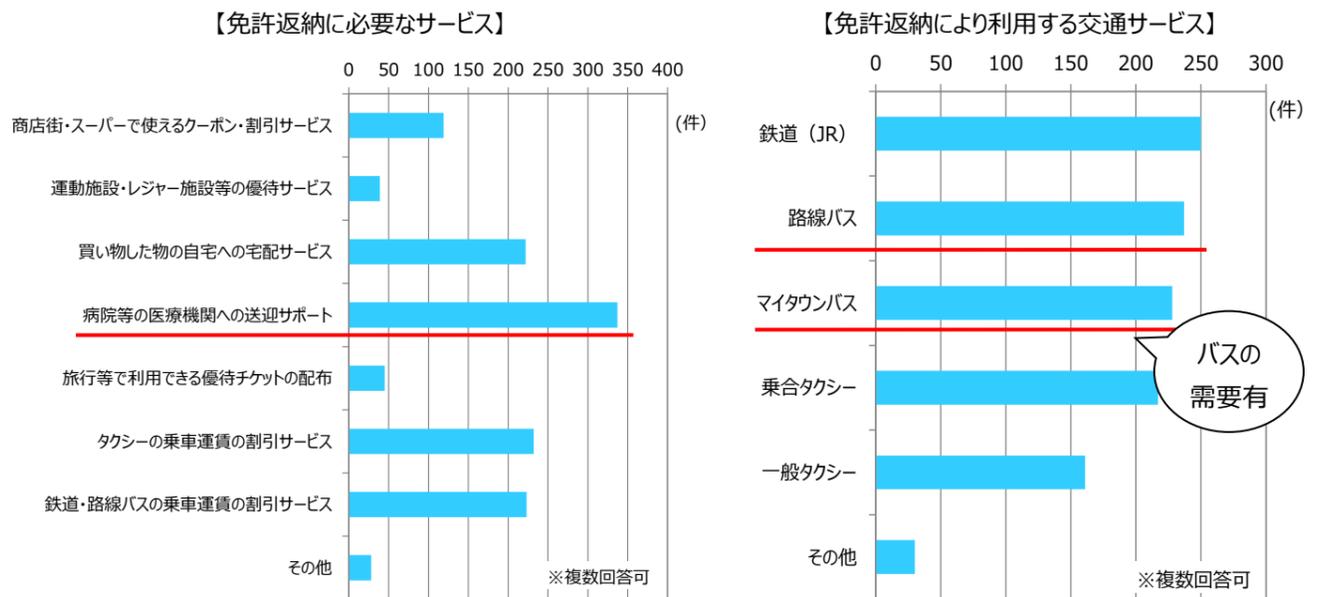
■ 運転の継続・免許返納に対する考え

- ・運転している住民が8割以上だが、何らかの形で、「現在運転していない」住民が130人近く確認された。
- ・免許返納を希望している住民は5割を超え、返納予定年齢は75歳以上の後期高齢者になってから、7割以上。



■ 免許返納に必要なサービス・免許返納により利用する交通サービス

- ・免許返納後、通院への送迎サポートを望む声が最多であり、タクシーや路線バスの割引、宅配サービス等が続いた。
- ・免許返納後は公共交通を利用するという回答がほとんどである。一般タクシーの利用意向も150人以上に確認された。

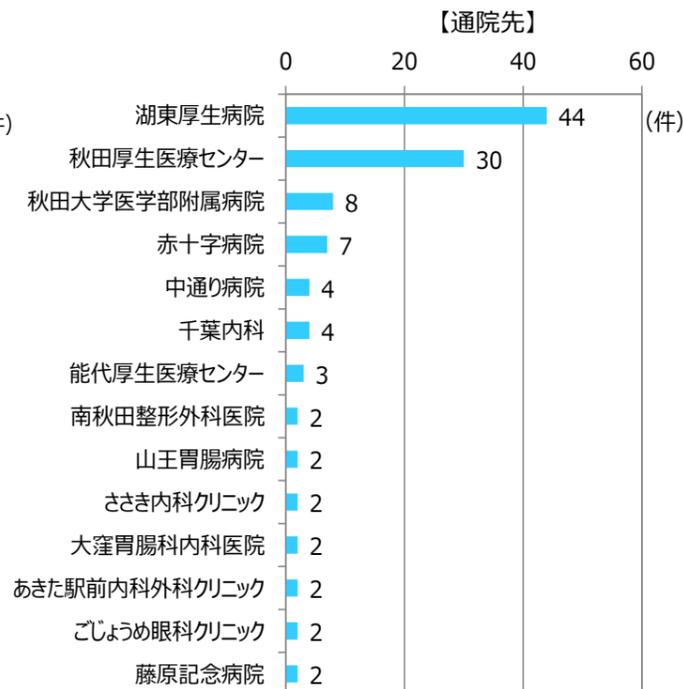
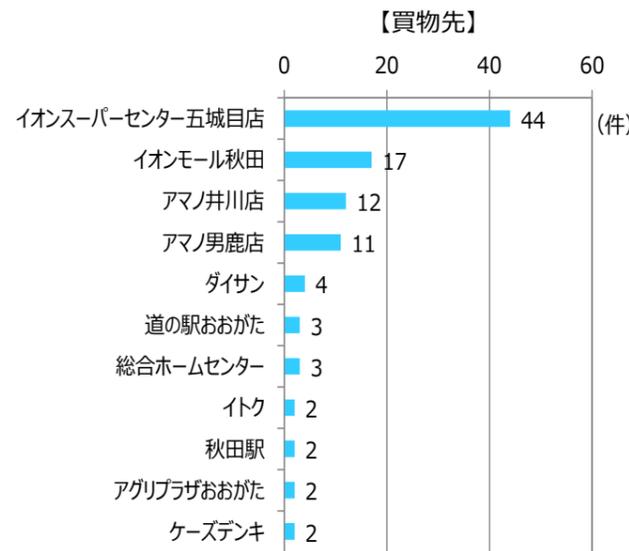
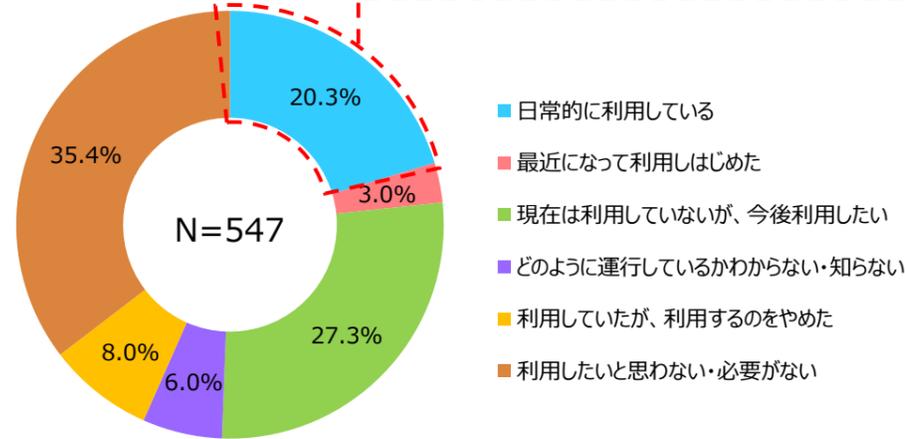


□ 公共交通の利用状況について

■ 公共交通の利用状況

- ・ 現在公共交通を利用しているという回答は2割強で、およそ110名確認された。
- ・ その中でも行先は【買物：イオンスーパーセンター五城目店】、【病院：湖東厚生病院】であり、次いで秋田方面となった。

【利用状況】



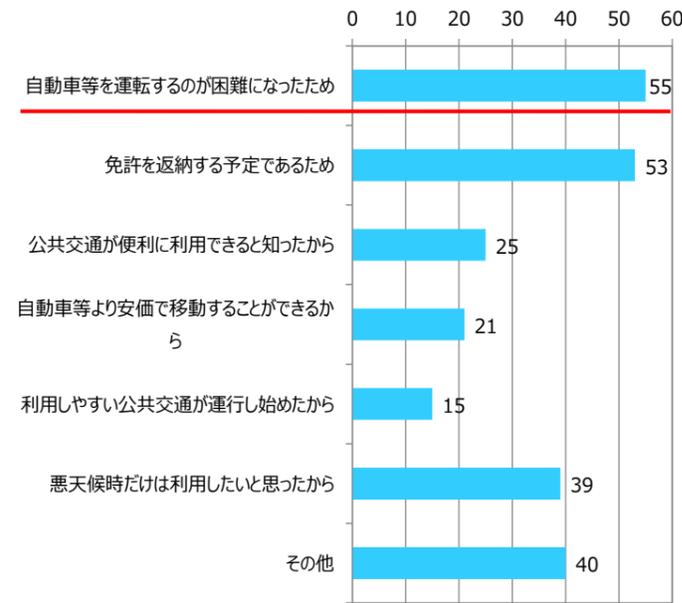
※回答数が1件だったものは買物先、通院先ともに省略

□ 公共交通に対する意見・要望について（今後利用したいと考えている方※潜在ニーズ層）

■ 公共交通を利用したいと思う理由・利用する上で不安なこと

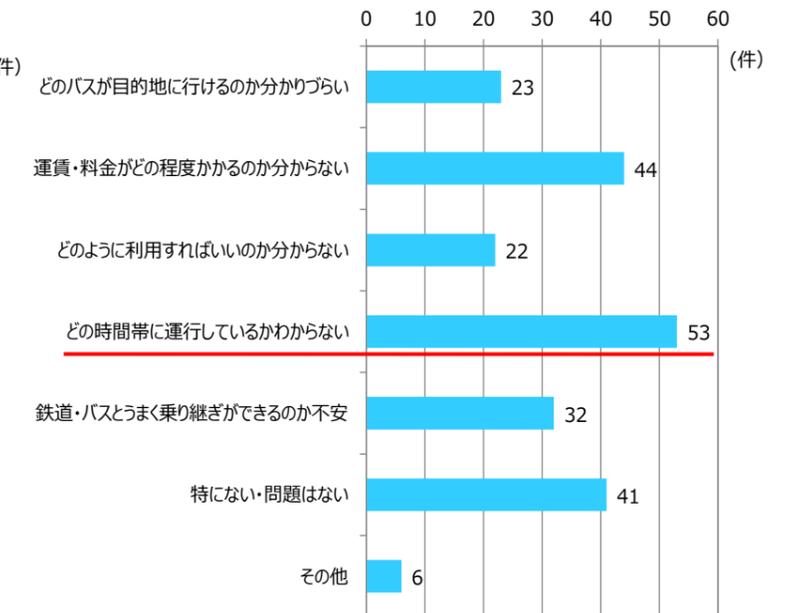
- ・ 運転が困難になったという回答が最多。次いで免許返納予定であることや、悪天候時の利用が挙げられた。
- ・ 利用したいと考えた際に、運行している時間帯や運賃・料金がどの程度かかるのか分からないとの回答が多い。

【公共交通を利用したいと思う理由】



※複数回答可

【公共交通を利用する上で不安なこと】



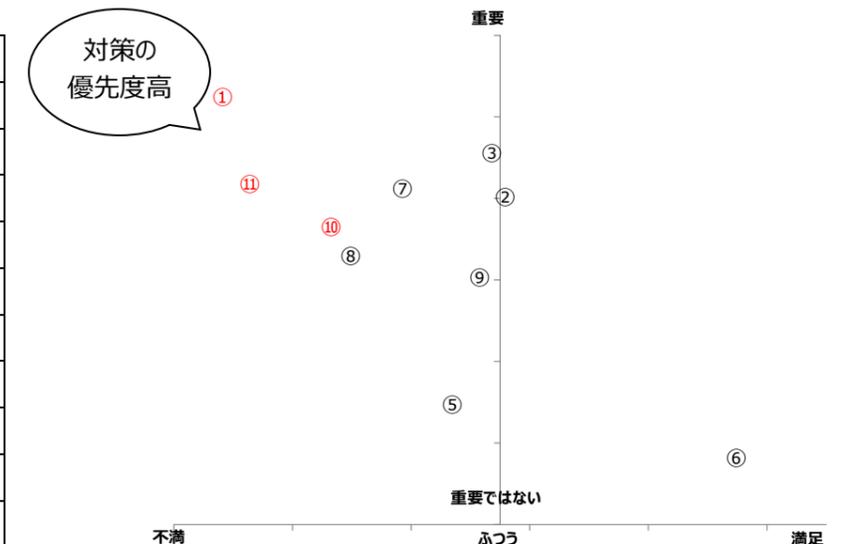
※複数回答可

□ 公共交通に対する評価について（現在利用している方※顕在ニーズ層）

■ 現状利用者の公共交通に対する満足度・重要度

- ・ 「公共交通全般」「交通機関同士の乗り換え・乗り継ぎ」「運行本数・間隔」が重要かつ不満の高い結果となった。
- ・ 網形成計画の策定において、接続性がよく使いやすい間隔の交通の検討が必要である。

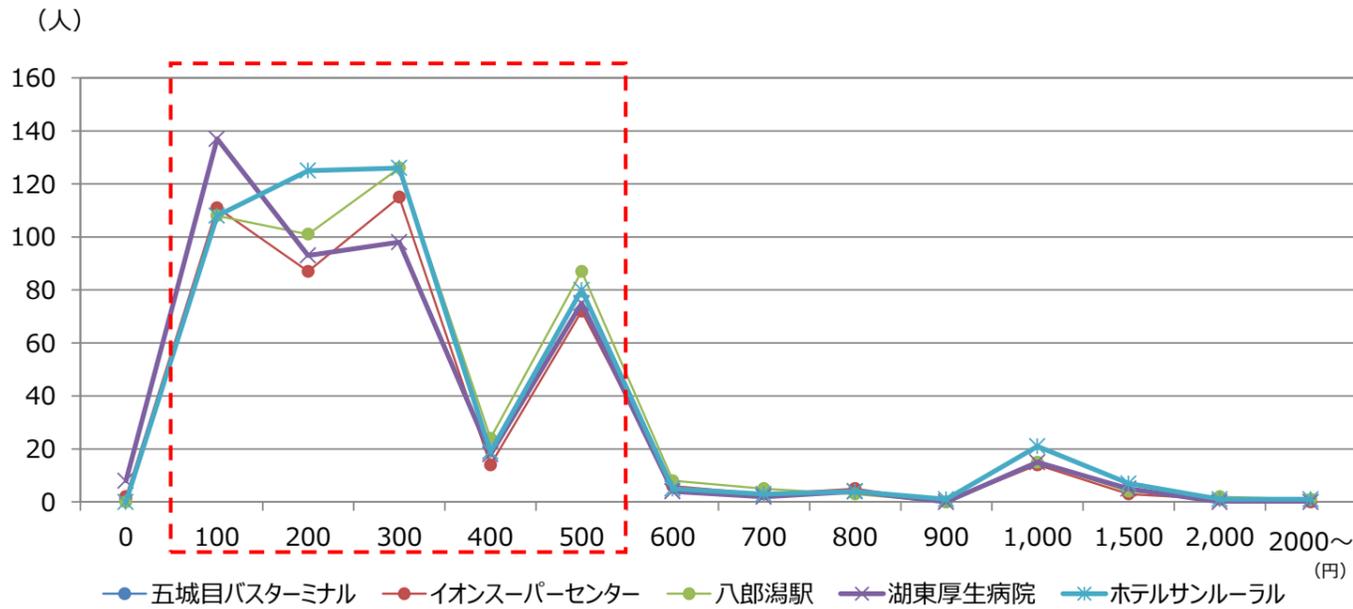
①	運行本数・間隔
②	交通サービスの運行地域・運行ルート
③	運行時間（始発・終発等）
④	運転手のあいさつなどの対応
⑤	バス停・待合所の快適性
⑥	車両の設備（大きさ・乗りやすさ）
⑦	運賃・料金設定
⑧	運行状況などの情報発信
⑨	路線図・時刻表等のわかりやすさ
⑩	交通機関同士の乗り換え・乗り継ぎ
⑪	公共交通全般



□公共交通の必要性について

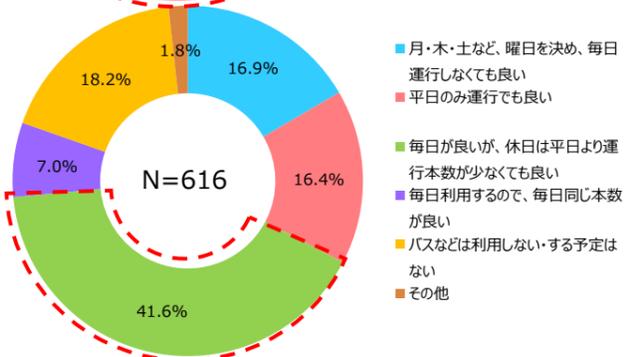
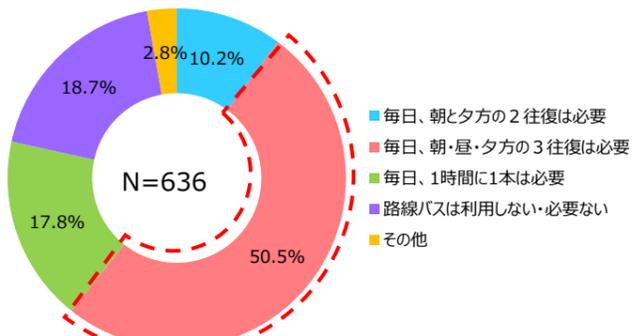
■公共交通の許容できる上限運賃

・目的地に関係なく、500円までが希望上限運賃であり、設定において抵抗が最も少ないのはおよそ300円前後。



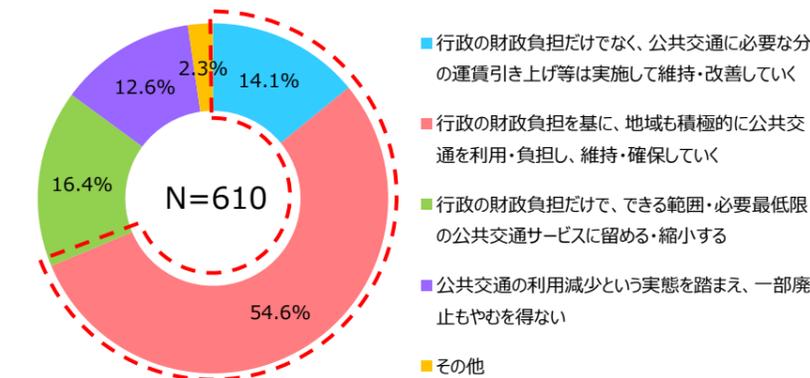
■最低限必要な公共交通の運行本数・曜日

・朝・昼・夜で3往復必要という回答が半数以上。
・「平日のみで良い・毎日同じ本数でなくとも良い」という意向が多く、土日は本数を減らして構わないことが確認された。



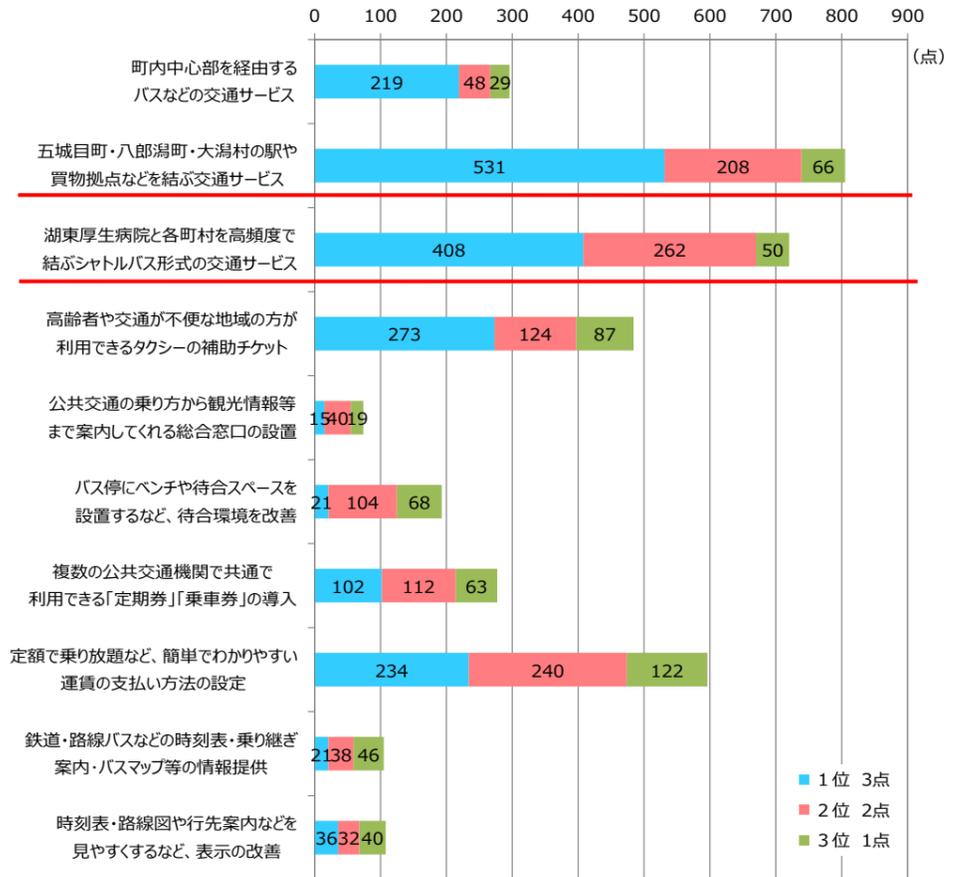
■今後の公共交通のあり方

・各町村合計の中で、81人のみ運賃の引き上げ等による公共交通の運行費用の地域負担に賛成している。
・7割近くは公共交通を維持・確保することに協力的である。



■公共交通に必要なサービス・施策

・八郎潟駅や各町村の買い物拠点を結ぶ交通サービスを求める意向が最多。
・次いで各町村と湖東厚生病院を結ぶシャトル型の交通サービスが次点である。
・病院に直通で停まり、病院発の便は買い物拠点等を結ぶ支払やすい交通が望まれている。



回答件数

選択肢	1位	2位	3位
町内中心部を経由するバスなどの交通サービス	73	24	29
五城目町・八郎潟町・大潟村の駅や買い物拠点などを結ぶ交通サービス	177	104	66
湖東厚生病院と各町村を高頻度で結ぶシャトルバス形式の交通サービス	136	131	50
高齢者や交通が不便な地域の方が利用できるタクシーの補助チケット	91	62	87
公共交通の乗り方から観光情報等まで案内してくれる総合窓口の設置	5	20	19
バス停にベンチや待合スペースを設置するなど、待合環境を改善	7	52	68
複数の公共交通機関で共通で利用できる「定期券」「乗車券」の導入	34	56	63
定額で乗り放題など、簡単でわかりやすい運賃の支払い方法の設定	78	120	122
鉄道・路線バスなどの時刻表・乗り継ぎ案内・バスマップ等の情報提供	7	19	46
時刻表・路線図や行先案内などを見やすくするなど、表示の改善	12	16	40

※100件以上の回答は赤ハッチ

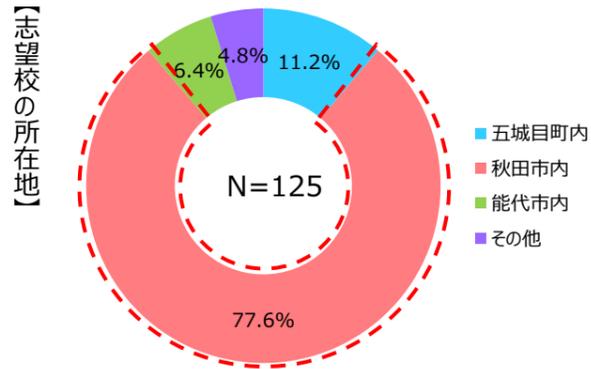
3. 調査結果概要（中学生アンケート調査） ※中学生本人と保護者の回答あり 計 126 票（内 1 票白紙回答）（以下無回答・白紙は外して集計）

□中学生本人の方の回答

□回答者の属性について

■回答者の性別・住まい・志望校の所在地について

・志望校の所在地は秋田市内が約 8 割で、地域外への移動需要が高い。

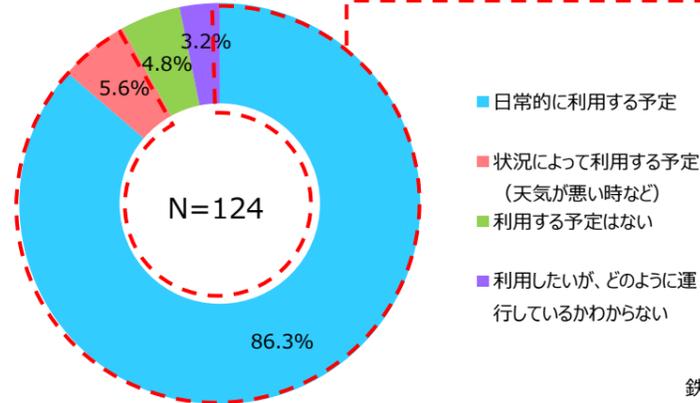


□志望高校への通学時の公共交通について

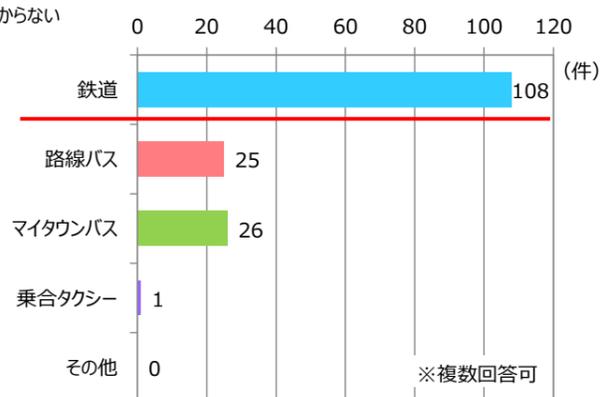
■公共交通を利用する予定

・日常的に公共交通を利用するとの回答が 8 割を超え、そのほとんどが鉄道を利用するという回答となった。
 ・上記【志望校】の結果と併せると、秋田方面や能代方面への通学において鉄道を利用すると考えられる。

【利用予定】



【利用予定公共交通】

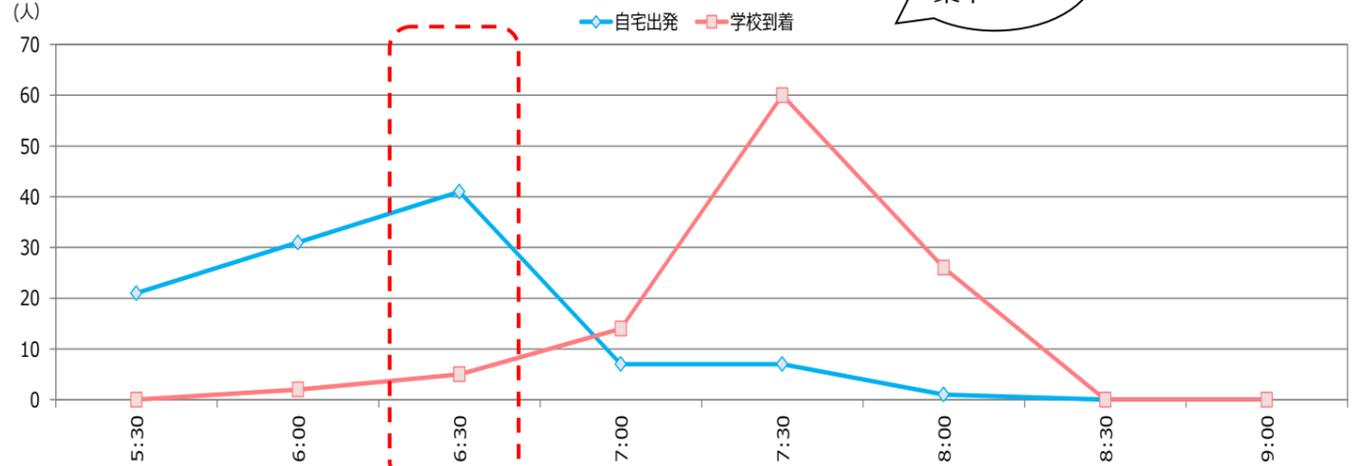


□志望高校への通学時間帯について

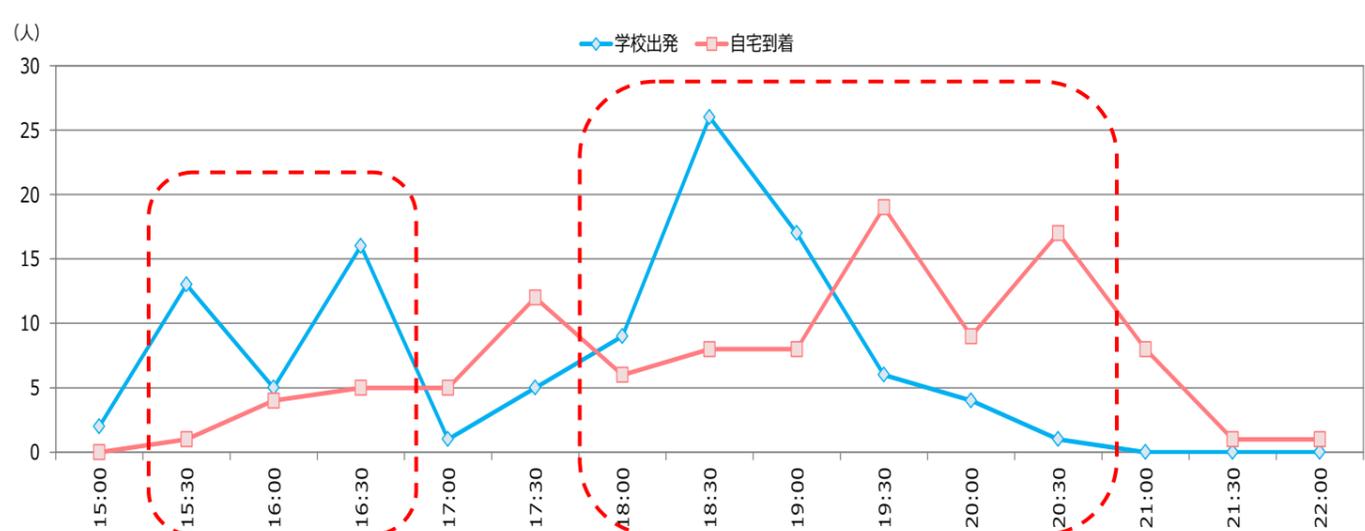
■志望校へ登下校する際の時間帯

・登校時間は、自宅出発時間は 6 時半が最も多く、学校到着時間は 7 時半が最も多い。
 ・下校時間についてはばらつきが多いものの、下校予定時刻である学校出発時間は 18 時半が最も多い。
 ・結果から、「地域内発の交通は 6 : 30 頃」、「地域外からの乗り継ぎ交通は 16 時～20 時」に需要が高いことが分かる。

【高校通学における自宅出発予定時刻・登校予定時刻】



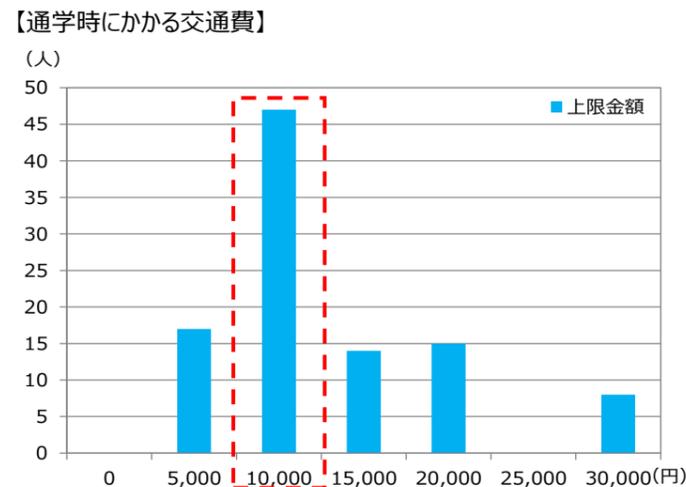
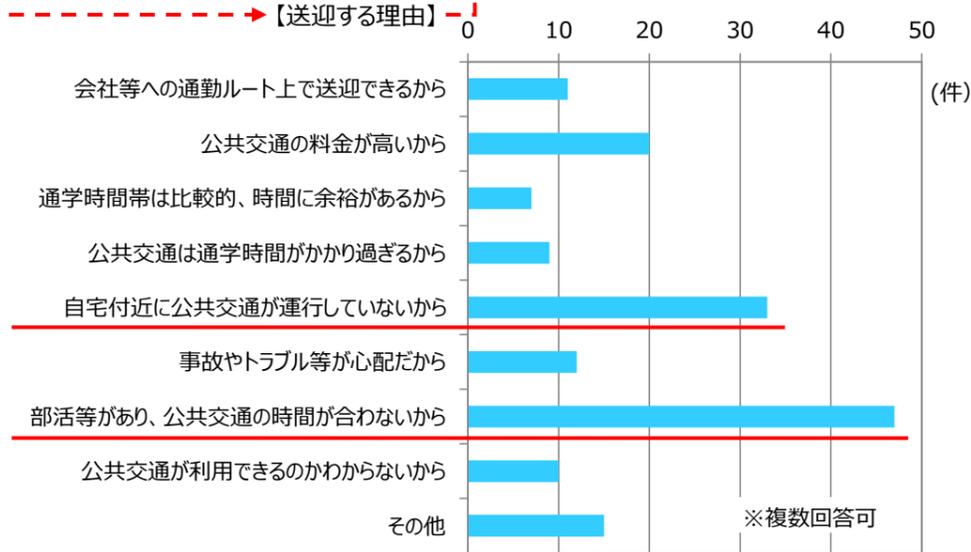
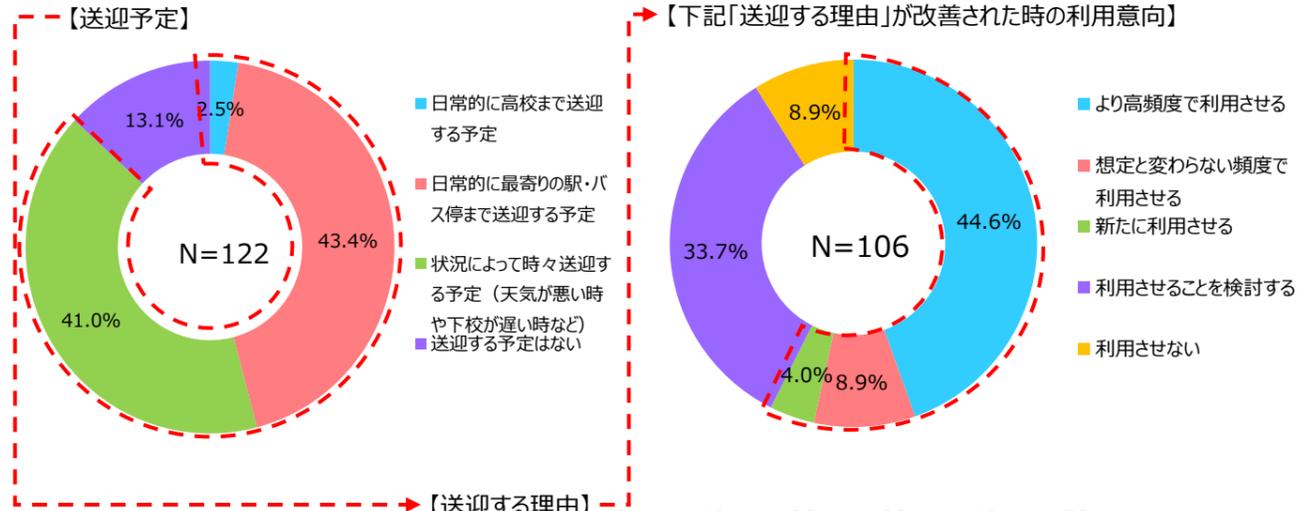
【高校通学における下校予定時刻・自宅到着予定時刻】



□保護者の方の回答（志望高校への送迎予定及び必要なサービス）

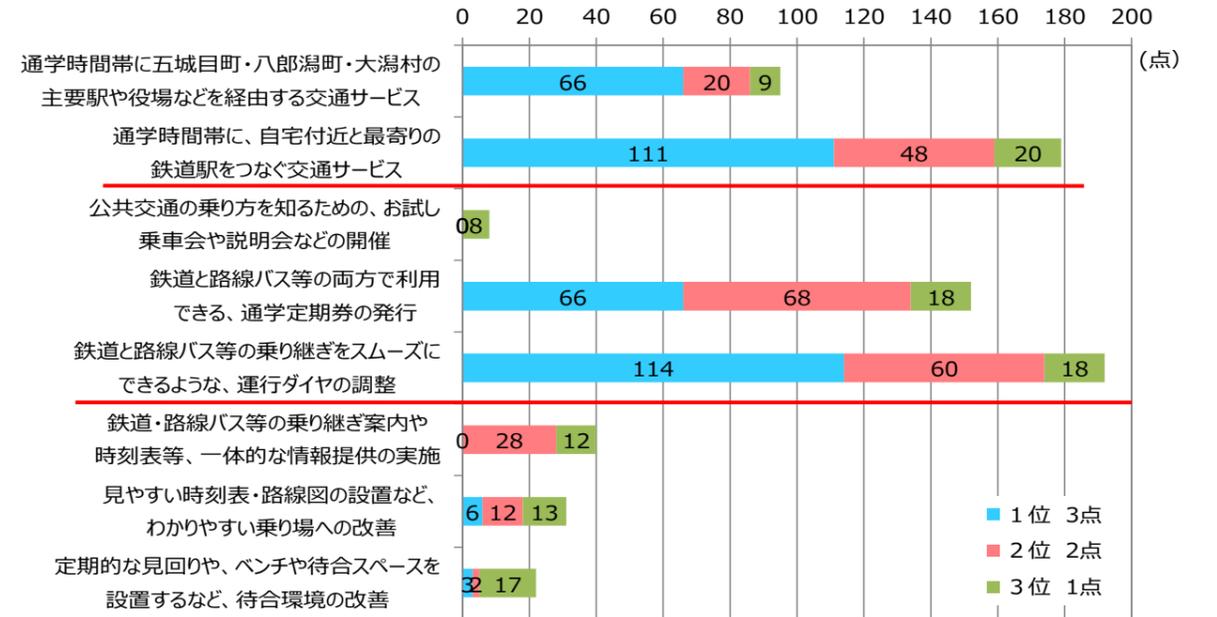
■高校への送迎予定及び送迎に対する負担の認識

- ・部活等により公共交通の時間が合わないため、日常的、または状況によって送迎するとの回答が8割を超える。
- ・通学時にかかる交通費の上限は1万円までが最も多い。



■通学において必要となるサービス

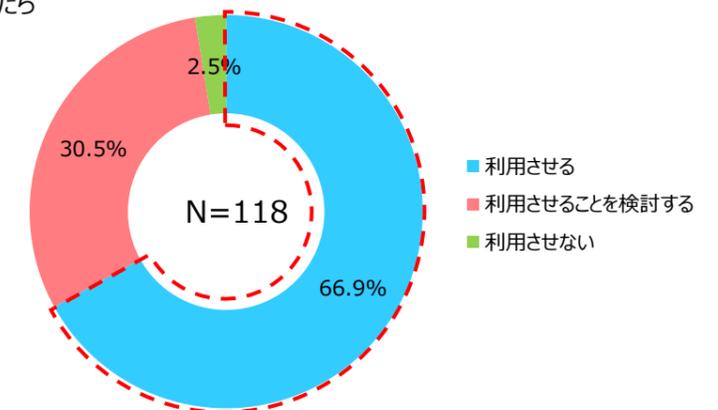
- ・乗り継ぎのためのダイヤ調整と、自宅付近と鉄道駅をつなぐ交通サービスを1位に挙げる声が多数。
- ・通学時間帯に八郎潟駅を発着する鉄道に間に合うよう調整された交通が望まれている。



回答件数	(件)		
選択肢	1位	2位	3位
通学時間帯に五城目町・八郎潟町・大潟村の主要駅や役場などを経由する交通サービス	22	10	9
通学時間帯に、自宅付近と最寄りの鉄道駅をつなぐ交通サービス	37	24	20
公共交通の乗り方を知るための、お試乗乗車会や説明会などの開催	0	0	8
鉄道と路線バス等の両方で利用できる、通学定期券の発行	22	34	18
鉄道と路線バス等の乗り継ぎをスムーズにできるような、運行ダイヤの調整	38	30	18
鉄道・路線バス等の乗り継ぎ案内や時刻表等、一体的な情報提供の実施	0	14	12
見やすい時刻表・路線図の設置など、わかりやすい乗り場への改善	2	6	13
定期的な見回りや、ベンチや待合スペースを設置するなど、待合環境の改善	1	1	17

※20件以上の回答は赤ハッチ

問：上記サービスが導入されたら
利用させますか？



4. 調査結果概要（高校アンケート調査） 高校生本人と保護者の回答有り 計 81 票（以下無回答・白紙は外して集計）

□ 高校生本人の方の回答

□ 回答者の属性

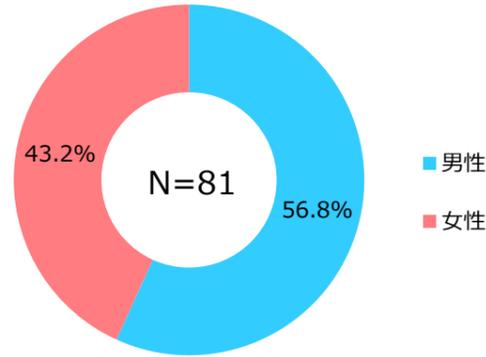
■ 回答者の住まい

・秋田市からの通学が最も多いが、合算すると南秋地域からの通学が最も多い。

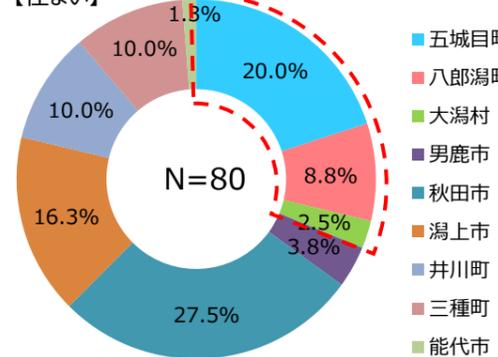
■ 回答者の住まい

・「8 時頃に学校に到着し、17 時 30 分～19 時 30 分頃に学校を出る交通」に需要が集中すると考えられる。

【性別】



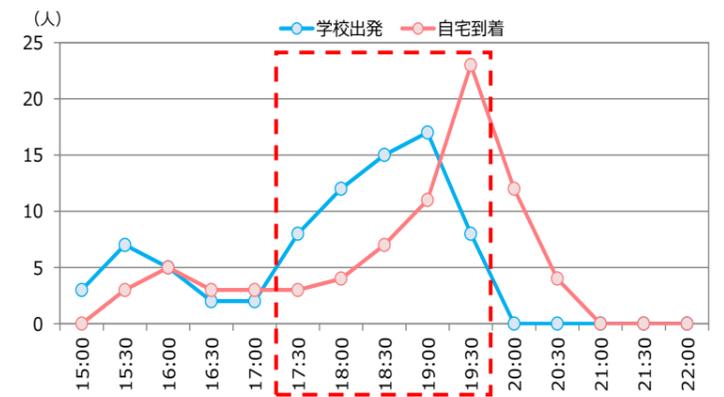
【住まい】



【自宅出発時刻・登校時刻】



【下校時刻・自宅到着時刻】

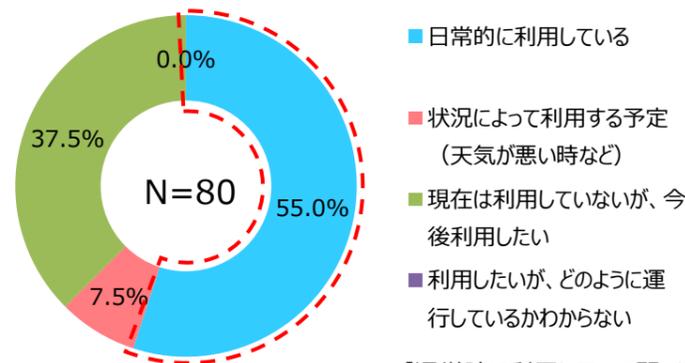


□ 通学状況

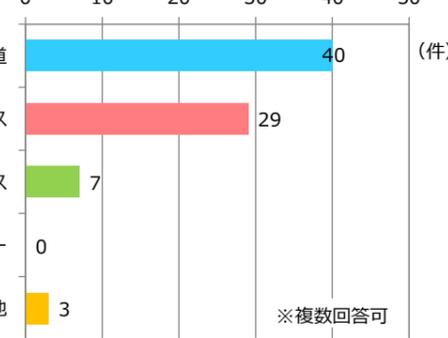
■ 高校通学における公共交通の利用状況

・日常的に公共交通を利用しているとの回答が 5 割以上で、その手段は鉄道が最も多く、次いで路線バスという結果となっている。
・利用駅・バス停は上記「住まい」と連動し、「八郎潟駅（前）」「五城目高校前」が多く、その他地域外の駅の利用が多い。

【公共交通利用の有無】



【通学手段】



【通学時に利用している駅・バス停】

駅名	JR		バス停	
	乗車駅	降車駅	バス停名	乗車駅
土崎駅	13	0	井川さくら駅前	2
上飯島駅	2	0	八郎潟駅前	24
秋田駅	5	0	五城目高校前	3
追分駅	5	0		33
羽後飯塚駅	2	0		
鹿渡駅	3	0		
八郎潟駅	0	39		

※回答数が乗降ともに 1 件だったものは省略

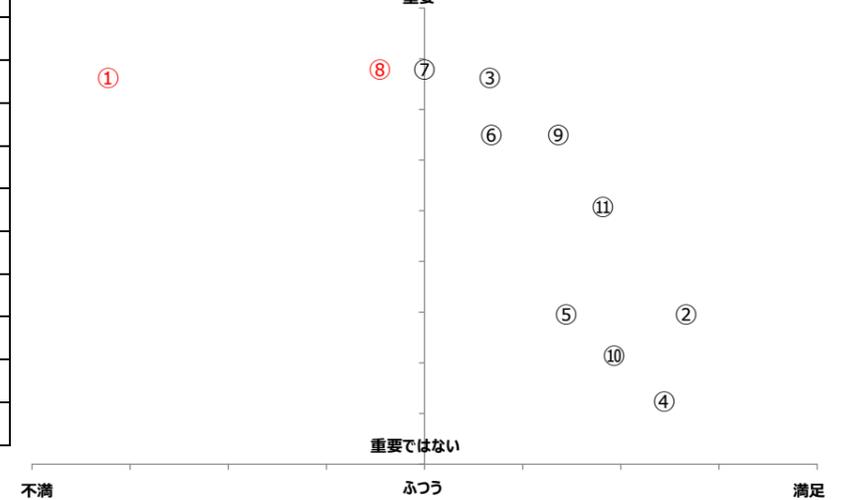
□ 公共交通に対する評価について

■ 利用者の公共交通に対する満足度・重要度

・「運行本数・間隔」が最も重要かつ最も不満という結果が出た。
・「運行状況などの情報発信」も「運行本数・間隔」と同程度に重要と考えられており、かつ不満という結果となった。
・「運転手のあいさつなどの対応」や「交通サービスの運行地域・運行ルート」は満足度が高く、かつそれほど重要ではないと考えられているため、現在のルートで問題は少ないと考えられる。
・今後網形成計画策定の検討において、「運行間隔が適切であり、遅れやダイヤの乱れなどの情報発信が可能なバス利用環境」を整えることが必要と考えられる。

①	運行本数・間隔
②	交通サービスの運行地域・運行ルート
③	運行時間（始発・終発等）
④	運転手のあいさつなどの対応
⑤	バス停・待合所の快適性
⑥	車両の設備（大きさ・乗りやすさ）
⑦	運賃・料金設定
⑧	運行状況などの情報発信
⑨	路線図・時刻表等のわかりやすさ
⑩	交通機関同士の乗り換え・乗り継ぎ
⑪	公共交通全般

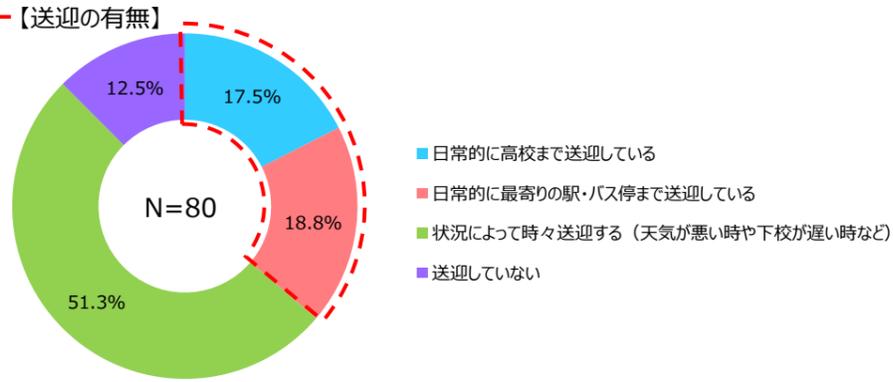
【満足度・重要度】



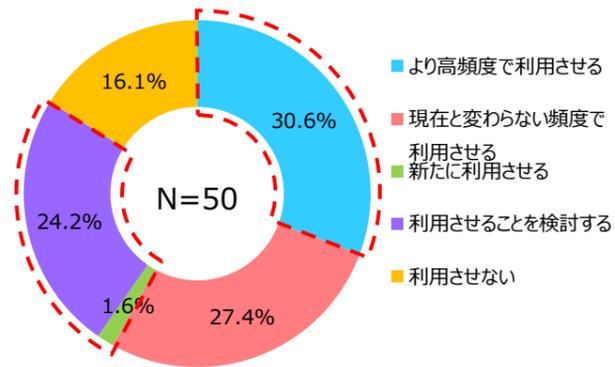
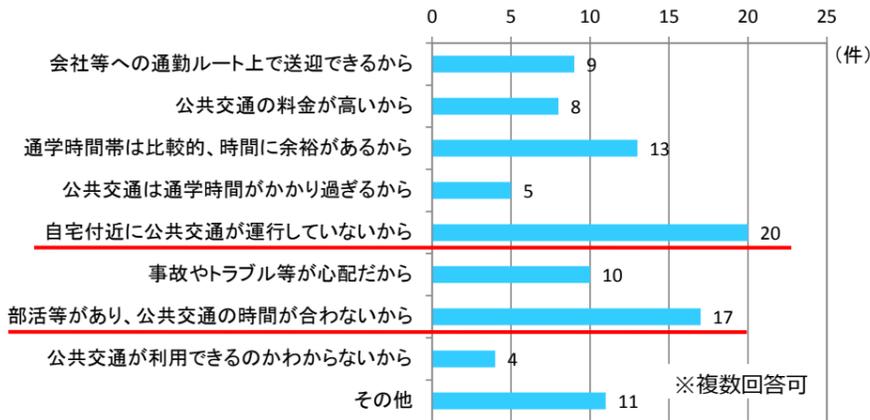
□ 保護者の方の回答（高校への送迎及び必要なサービス）

■ 高校への送迎及び送迎に対する負担の認識

・日常的・または状況によって送迎するとの回答が約 30 人確認され、「自宅付近に公共交通が運行していないから」が 20 人。
 ・「送迎する理由」が改善された時の利用意向では、改善された場合「より高頻度で利用させる」が約 15 人、「新たに利用させる」「利用させることを検討する」が約 18 人と、利用増加が見込めるのは合計で 33 人となった。

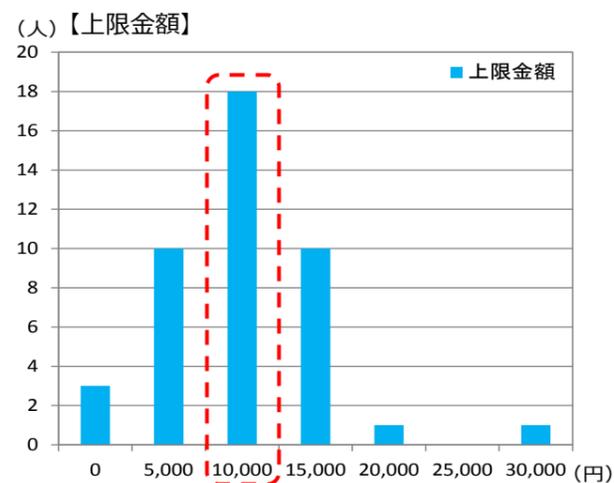
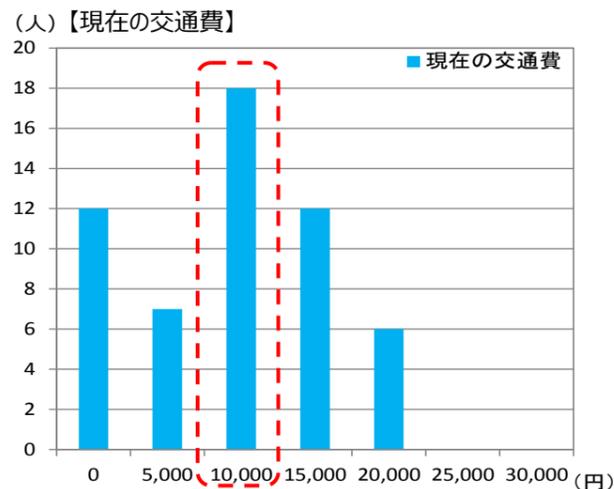


【送迎する理由】 → 【左記「送迎する理由」が改善された時の利用意向】



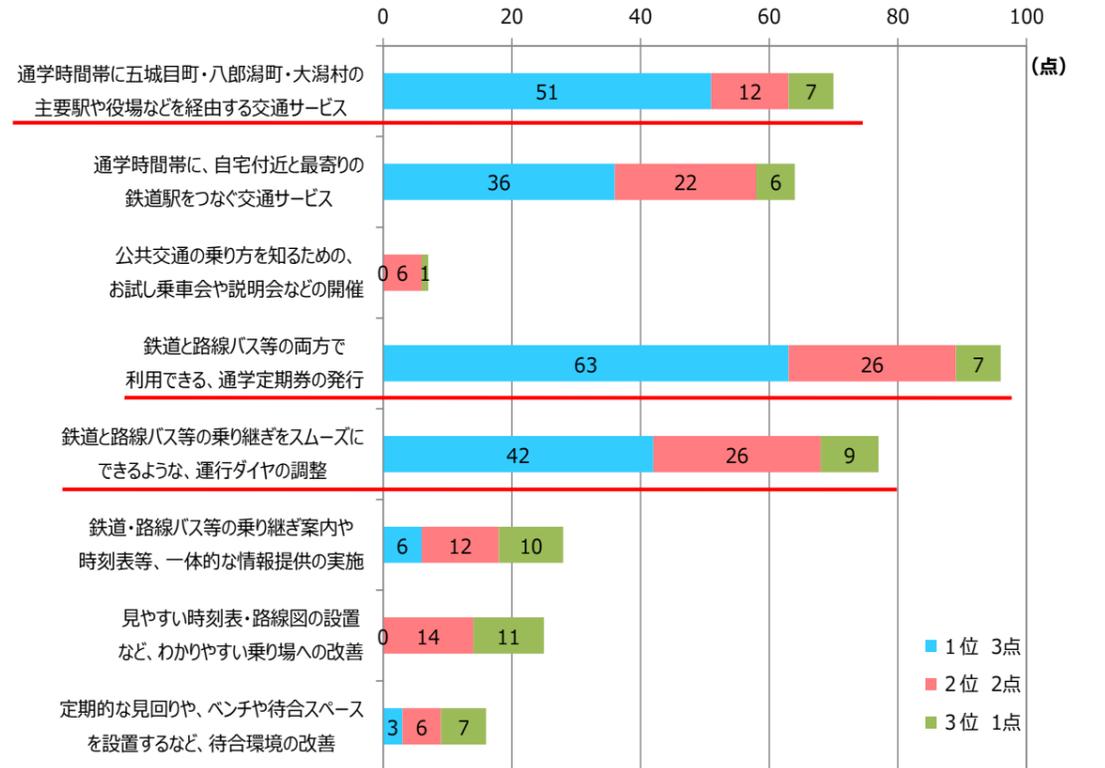
■ 通学にかかる交通費について

・現在通学にかかっている交通費は一万円が最も多く、支払い可能な上限金額も一万円が最も多い。
 ・新規運賃の検討の際、月の定期券はおよそ 1 万円が希望上限価格であることが分かる。



■ 通学のために必要なサービスについて

・鉄道とバス等の両方で利用できる通学定期券を望む声が多い。
 ・改善時に利用させる、または利用させることを検討するとの回答が 9 割を超える結果となった。



回答件数	1位	2位	3位
通学時間帯に五城目町・八郎湯町・大湯村の主要駅や役場などを經由する交通サービス	17	6	7
通学時間帯に、自宅付近と最寄りの鉄道駅をつなぐ交通サービス	12	11	6
公共交通の乗り方を知るための、お試乗車会や説明会などの開催	0	3	1
鉄道と路線バス等の両方で利用できる、通学定期券の発行	21	13	7
鉄道と路線バス等の乗り継ぎをスムーズにできるような、運行ダイヤの調整	14	13	9
鉄道・路線バス等の乗り継ぎ案内や時刻表等、一体的な情報提供の実施	2	6	10
見やすい時刻表・路線図の設置など、わかりやすい乗り場への改善	0	7	11
定期的な見回りや、ベンチや待合スペースを設置するなど、待合環境の改善	1	3	7

